

平成29年度 事務事業評価シート

事務事業名		中学校給食生ごみ処理					所管	教育委員会 学務課		
事務事業の概要	行政計画	事業NO.	—	計画事業名	(行政計画外事業)			事業の開始・終了年度		
	長期総合計画体系	[基本目標]							[事業開始] 平成10年度	
		[小 柱]							[終了予定] - 年度	
		[施 策]								
	根拠法令等	その他		[法令等名]	学校給食法(学校給食衛生管理基準)等					
	事業対象	区立中学校在籍生徒								
	事業目的	学校給食によって排出される生ごみの減量化とリサイクル化を図る。								
	事業内容	生ゴミ処理機の保守点検、修繕、生ごみの回収及び資源化委託								
委託の有無	全部委託		委託内容	生ゴミ処理機の保守点検、生ごみの回収及び資源化加工						
補助金の有無	なし									
事務事業の実績	種 別	指標の名称		(単位)	目標値 (31年度)	26年度	27年度	28年度		
	活動指標	生ごみ処理機の設置台数		台	0	4	4	3		
		給食用生ごみの処理率		%	100	96.4	94.5	79.8		
	成果指標	年間給食用生ごみ排出量		t	35	46	45	38		
		決算額 (単位：千円)					1,930	1,852	1,593	
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト(人件費など)				850	604	1,111		
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)				1,931	1,853	1,593		
		その他のコスト(扶助費・補助費など)				0	0	0		
		総経費				2,781	2,457	2,704		
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)				0	0	0		
その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)				0	0	0				
一般財源(区負担額)				2,781	2,457	2,704				
前回評価から改善した事項	なし									
評価の視点	評価	評価の理由								
	必要性	3	ゴミの減量化は区の環境行政における大きな課題であり、処理方法は資源化を推進していく。							
	効率性	2	処理機の老朽化に伴い、維持管理のコスト等の効率性に課題がある。							
	手段の適切性	2	7校の給食生ごみ処理は、回収しリサイクル施設での資源化処理委託が適切である。							
	目的達成度	2	処理機の老朽化によって全量処理できない学校があったため、処理率が低下した。							
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)						評価結果	今後の方向性	拡大改善 維持 縮小 廃止・終了		
処理方法の方向性については全校での回収、資源化処理における効率化を図っていく。							改善			